

平成29年度 委員会トピックス

経済文教常任委員会

地域おこし協力隊は受入れ側の対応力と
導入目的の明確化が重要！
農産物直売所は、直売＋αで農の魅力拡大！

研修概要

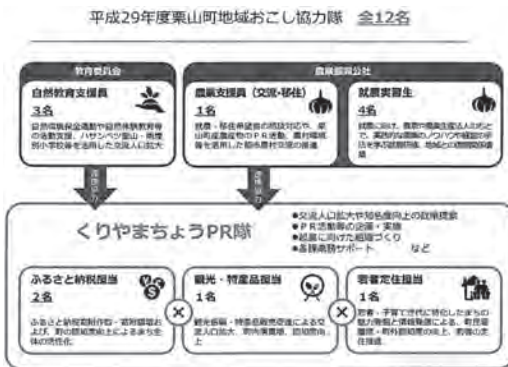
日程：6月28日
視察地：栗山町食と農のふれあいファーム
くるるの杜（北広島市）
テーマ：地域おこし協力隊の活動と定住に向けた行政の取組み
農業と農産物を観光資源とした取組み

栗山町 (地域おこし協力隊)

隊員数12名を採用し、農業関係、教育関係の他、町づくりや都市との交流事業など幅広い活動を実施。

☆隊員を住民の目に見える化の取組み
自然教育支援員、農業支援員を採用する際、協力隊の活動が住民との交流が少ない課題を解決するため、住民との交流を行うPR隊として採用し、協力隊相互の連携を図る取組みを実施。

ここがスゴイ！



議会活動の根幹ともいえる委員会活動。このコーナーでは、各委員会できらえる課題や調査事項など、各委員会活動を紹介します。



食と農のふれあいファーム くるるの杜

農産物直売所の他、体験農場、調理体験施設、市民農園、レストランを配し、栽培から加工体験をはじめ、農産物の総合学習が可能な道内随一の農体験複合施設。



ここがスゴイ！

☆農体験を主軸とした多様な企画から子供から高齢者まで楽しめる観光拠点化の取組み



研修を終えて

・地域おこし協力隊の取組みについて栗山町でも本町と同様の課題を抱えているものの、町が考える導入目的に沿った中でそれぞれが活躍していた。

また、農業を基盤とした観光拠点も規模こそ違うものの、直販＋αが集客を更に高めることを知ることができた。